

■ 応募方法

応募用紙に必要事項をご記入のうえ、郵送、FAX でお申込みください。

※応募用紙はサントミュージーゼホームページからもダウンロード可能です。

※オープン講座の聴講は申し込み不要です。

■ 応募締切

2017年5月20日(土) **必着**

※会場の都合上応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。

結果は5月24日(水)までに郵送にてお知らせいたします。

■ お申し込み・お問い合わせ



「音楽がヒラク未来」係 担当:田澤 / 鈴木

〒386-0025 長野県上田市天神3-15-15

<https://www.santomyuze.com/>

T E L 0268-27-2000

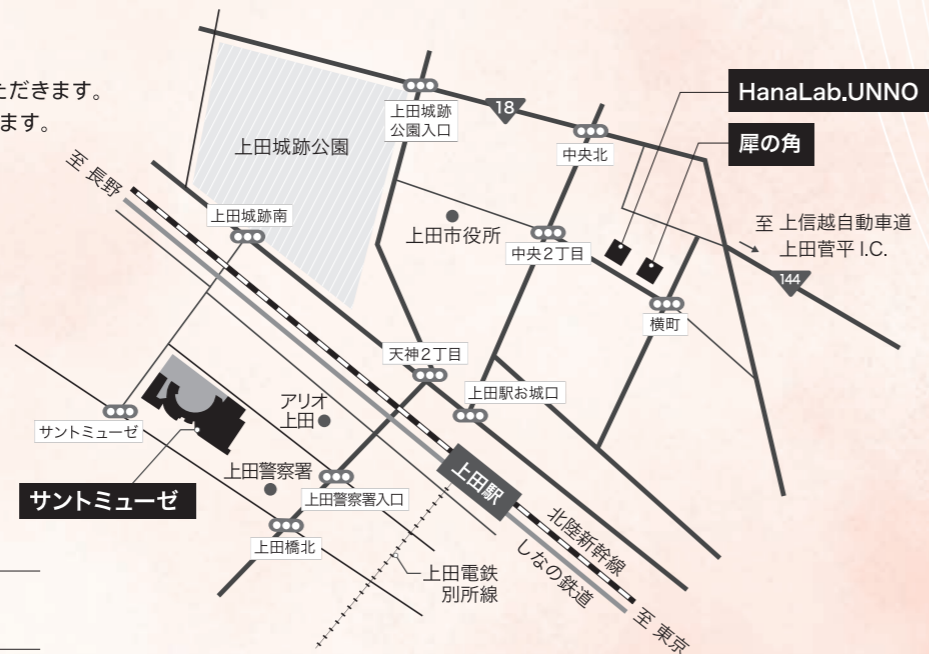
F A X 0268-27-2310

※休館日:火曜日(祝日の場合は翌日)

アクセス

上信越自動車道「上田菅平I.C.」から車で約15分

北陸新幹線、しなの鉄道、上田電鉄別所線「上田駅」から徒歩約7分



全国 4 館連携フォーラム事業



音楽が ヒラク 未来

Music shaping our Future

【上田フォーラム】

音楽は「地域社会」にどのような活力を創出できるのか

参加者募集

2017 5/31(水)・6/1(木)

サントミュージーゼ
(上田市交流文化芸術センター)

主 催：上田市(上田市交流文化芸術センター)、上田市教育委員会

連携館：札幌コンサートホール Kitara、東京文化会館、北九州芸術劇場、
サントミュージーゼ(上田市交流文化芸術センター)

芸術監督・監修：仲道郁代

助 成：(一財)地域創造、平成29年度 文化庁劇場・音楽堂等活性化事業

企 画：サントミュージーゼ(上田市交流文化芸術センター)

応募用紙

原則として2日間通しての参加をお願いします。やむを得ない事情で2日間のご参加が難しい方は、下記の募集動機にその理由及び参加希望日を記載してご応募ください。

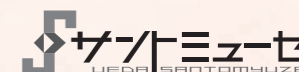
※枠内に収まるようにご記入ください。※コピー可

フリガナ		
氏名	性別	男 ・ 女
	年齢	才
住所 〒		
所属先 (文化施設等にお勤めの方は施設名をお書き下さい)		
職種	所属年数	年
電話番号	携帯電話	
MAIL		
応募動機		

札幌コンサートホール



北九州芸術劇場
KITAKYUSHU PERFORMING ARTS CENTER



様々な立場でアートに関わる人々がひとつの場所に集い、
アートと社会との関わりや地域とのつながりについて、今後の可能性を考えます。

プログラム	テーマ	音楽は「地域社会」にどのような活力を創出できるのか
	日程	2017年5月31日(水)・6月1日(木)
	対象	公共ホール職員、アーティスト、地方公共団体文化行政担当者、学生、芸術文化と地域との関係について関心のある方
	参加費	無料

1日目 5/31(水)	内容		会場
12:45	受付開始		サントミュージゼ (小ホールホワイエ)
13:15 13:30	開会		サントミュージゼ (小ホール)
13:45 15:00	プログラム① (75分)	講演 ▶「アートから始まる地域の未来」 社会における芸術の役割について、さまざまな事例をもとに考えます。 講師：吉本光宏	オープン サントミュージゼ (小ホール)
15:15 16:15	プログラム② (60分)	講演 ▶「アーティストの公共性“舞台”は人をつなぐ」 人と人をつなぐ芸術の役割について考えます。 講師：仲道郁代	オープン サントミュージゼ (小ホール)
16:45 18:15	プログラム③ (90分)	ワークショップ体験 ▶「音楽から広がる“感覚”」 音楽ワークショップの可能性について考えます。 講師：仲道郁代	サントミュージゼ (大スタジオ)
18:30 19:30	プログラム④ (60分)	ふりかえり ▶「音楽ワークショップを体験して」 体験を通じて感じたことを言葉にします。	サントミュージゼ (大スタジオ)

2日目 6/1(木)	内容		会場
10:00 12:00	プログラム⑤ (120分)	パネルディスカッション ▶「アートとまちが出会う瞬間」 各分野のパネラーの事例をもとにアートとまちの関係性について考えます。 パネラー：三澤一実 / 荒井洋文 / 小澤櫻作 モデレーター：津村卓	オープン 犀の角
12:00 13:00	プログラム⑥ (60分)	ランチミーティング ▶「おはなししましょ」 ランチを食べながら、パネルディスカッションで提示されたテーマについて考えます。	HanaLab.UNNO
13:00 15:00	プログラム⑦ (120分)	グループディスカッション ▶「想いを届けよう」 音楽が果たしうる可能性についてグループごとに考え発表します。 ファシリテーター：仲道郁代 / 津村卓 / 小澤櫻作	HanaLab.UNNO
15:30 16:30	プログラム⑧ (60分)	コンサート ▶「ピアノとまちが恋をして」 ※コンサートのみの鑑賞はできません。 出演：仲道郁代	犀の角
16:45 17:45	プログラム⑨ (60分)	まとめ・閉会 ▶「アートとまちが結ばれて」 2日間のプログラムを受け、具体的な行動について提言をまとめます。 鼎談：仲道郁代 / 母袋創一(上田市長) / 津村卓	犀の角

オープン オープン講座の聴講は事前申し込み不要です。直接会場へお越しください。

聴くことから始めよう

私たちは古来、「聴く」という素晴らしい力を持っています。
自然の音を聴き、気配を聴く。自分の心に耳を傾け、他者の心に耳をすませます。「聴く」ということは、心模様思いを巡らせ、その機微を感じ取り、言葉にならないようなものを想像することなのだと思います。人と人は、聴こうとする行為なしに、わかり合うことも、つながることも、できないのかもしれない。社会が揺れ動き、変わっていきこうとする今、漠然とした不安に耳をふさぐのではなく、耳を開いて聴くことの大切さを、改めて見つめてみたい――。

音楽には、生きるという不変の営みにおける喜びや悲しみ、恐れ、驚き、祈り、願いが内包され、人はそれを聴いてきました。特にクラシック音楽は、長い歴史によって凝縮した人生の真理を孕み、耳を傾けること、想像すること、考えることを人に課してくれるのです。

現代の社会において音楽が果たしうる大きな可能性がここにあるのではないかと。
その可能性を模索し、社会へと役立てることに、全国の4つの会館が取り組みます。

- 音楽は「学び」の現場で子どもたちに何をもちたすことができるのか(札幌コンサートホール Kitara)
- 音楽の力を伝え、広める人材をどのように「育成」すべきか(東京文化会館)
- 音楽は「地域社会」にどのような活力を創出できるのか(サントミュージゼ [上田市交流文化芸術センター])
- 音楽が「越境」することでどのような広がりが生み出されるのか(北九州芸術劇場)

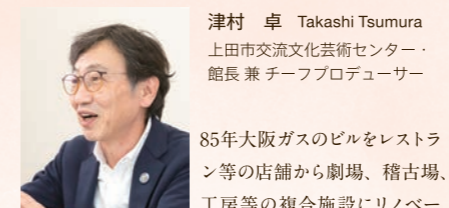
音楽がヒラク未来。
聴くことから始まる未来を、私は信じています。

芸術監督・監修：仲道郁代



吉本 光宏 Mitsuhiro Yoshimoto
ニッセイ基礎研究所 研究理事

1958年徳島県生。文化審議会文化政策部会委員、文化庁2020年に向けた文化イベント等の在り方検討会座長、東京芸術文化評議会評議員／文化プログラム検討部会会長などを歴任。東京オペラシティや東京国際フォーラム等の文化施設開発やアートワーク計画のコンサルタントとして活躍する他、文化政策、創造都市、オリンピック文化プログラム等の調査研究に取り組む。著書に「文化からの復興」(共著)など。



津村 卓 Takashi Tsumura
上田市交流文化芸術センター・館長 兼 チーフプロデューサー

85年大阪ガスのビルをレストラン等の店舗から劇場、稽古場、工房等の複合施設にリノベーションした扇町ミュージアムスクエアを企画し、副支配人兼プロデューサーに就任。87年より02年まで兵庫県伊丹市の伊丹市立演劇ホール(アイホール)チーフプロデューサー。95年より財団法人地域創造プロデューサーを務める。03年より北九州芸術劇場チーフプロデューサー、08年より館長兼務し現在は顧問。14年より上田市交流文化芸術センター館長。その他東京都文化施設の指定管理者選定・評価委員他



荒井 洋文 Hirofumi Arai
シアター&アーツうえだ / 犀の角 代表

上田市出身。学生時代から演劇活動に携わり、公益財団法人静岡県舞台芸術センター制作部に所属後、上田市で文化事業集団「シアター&アーツうえだ」を発足、街中や里山での文化芸術活動を行っている。2016年、上田市海野町の空き店舗をリノベーションし、演劇やアート活動、ライブ等で使用できるイベントスペースとゲストハウスを備えた民間文化施設「犀の角」をオープン。様々な表現活動や地域住民・アーティストの交流の場として運営している。



小澤 櫻作 Osaku Ozawa
上田市交流文化芸術センター・プロデューサー
(公財)北九州市芸術文化振興財団・音楽事業アドバイザー

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール、文化庁在外派遣研修員(ウーン国立歌劇場)、(一財)地域創造・ディレクター、(公財)アフィニス文化財団・事業部部長を経て、2013年から上田市交流文化芸術センターのプロデューサーに就任。現在、上田市交流文化芸術センター・プロデューサー、(公財)北九州市芸術文化振興財団・音楽事業アドバイザー、(一財)地域創造・公共ホール音楽活性化事業チーフコーディネーター



©Kiyotaka Saito

仲道郁代 Ikuyo Nakamichi

人気実力ともに日本を代表するピアニスト。1987年のデビュー以後、全国各地で数多くのリサイタルを開催するほか、多数のCDをリリース。サントミュージゼ開館にあたってはピアノ選定を行い、2014年度はレジデント・アーティストとしてホールから街へ飛び出し、保養園や小学校でのアウトリーチを実施。2016年1月、サントミュージゼで初演された劇作家・内藤裕敬氏とのコラボレーション作品「ロマン派症候群」が好評を博し、この秋再演が決定。全国7都市にて上演予定。著書に「ピアニストはおもしろい」(春秋社)ほか。一般財団法人地域創造理事、桐朋学園大学教授。http://www.ikuyo-nakamichi.com



三澤 一実 Kazumi Misawa
武蔵野美術大学教授

1963年北御牧村(現東御市)生まれ。県立上田染谷丘高等学校卒。東京芸術大学大学院修士課程修了。2008年より武蔵野美術大学教授。2004年には北御牧村の全村民と、写真で地域の文化を視覚化する「北御牧村写真プロジェクト」を行い写真集「10000の瞳」にまとめる。現在は武蔵野美術大学の学生と「旅するムサビプロジェクト」を実施。全国各地の学校や美術館などで「黒版ジャック」やワークショップなどを展開。旅先は24都道府県で200件を超える。

未ヒ音楽
来ラ楽
ムクガ